



平成23年度 ブラジル通信  
 10月29日(土)~11月4日(金)  
 No. 9  
 発行者: 宮本 朋子

## 教育交流校での実践活動

パラナヴァイ市での2ヶ月間、多くの学校を訪問させていただき、その度に日本にとっても関心をもっている先生や子どもたちに出会いました。特に、日本語の文字に興味をもつ人が多く、漢字のネックレスやいれすみをしている人をよく見かけました。しかし、日本がどこにあってどんな国なのか、中国とはどう違うのかなどもわかっていない子がおり、日本に関する知識が低いことを感じました。そこで、教育交流校であるノエミア初等学校とカイーキ初等学校にて、日本文化を知ってもらう授業を実践しました。



日本が大好きな先生と彼女の夫

漢字のいれすみをしていました



ブラジルとの違いを中心に、日本の位置や季節などを紹介しました



寝ながらDVDを見る子もいました

第1時では、世界地図や写真を使って日本のことを簡単に説明しました。その後、DVDを見せて豊橋の学校紹介をしました。その中で子どもたちが一番興味をもったのが水泳の授業でした。パラナヴァイ市は内陸にあり、海や川から離れていることもあり、プールに入る機会がほとんどありません。そのため、学校にプールが設置されていること、どの児童もある程度泳げることに、とても驚いていました。また、食事が1度しかないことや給食の準備・片づけ、清掃活動等を児童が全部することを知ると、日本の子どもたちは大変だという意見が多く出ました。そこで、それぞれの活動における意義を説明したところ、授業の最後には「私もやってみたい」「日本っていいな」「日本の学校に行きたいな」という声が変わっていきました。



折り紙

手裏剣完成!



大きい紙で説明しました

日本や豊橋の学校への興味が高まったことから、子どもたちの「やってみたい」という気持ちを実現するため、日本の文化を紹介しながら体験学習を行いました。最初は折り紙の授業から始めました。パラナヴァイ市の学校や施設を訪問していると、折り紙で作った作品の掲示物をよく目にしました。日頃から身近にある日本文化でもあるので、子どもたちも大喜びで取り組みました。しかし、少し難しくなるとあきてしまうようで、すぐに先生を呼ぶ、人に頼って自分では折らない、落ち着いて座ってられない、というような状況になることがありました。そこで、最後までできた子に、日本語で名前を書いてあげると、ほかの子どもたちも何とか完成させようと見本を手に取り組んだり、できた子が困っている子を教えてあげたりする姿がみられました。また、授業が終わった後も、別の紙で作る子もおり、1つの物を作り上げる喜びを少しは感じてもらえたようでした。



ジャンカ

誰が一番強いかな?

子どもたちがいつも私に質問するのは、「〇〇は日本語で何て言うの?」です。言語への関心がとても高いことから、次に取り組んだのは「ジャンカ」でした。この曲のダンスはとても簡単で前後左右に動くだけ。しかもじゃんけんをして列を作っていくというゲームです。そこで、その動きを言葉にして歌いながらじゃんけんを教えたところ、とても盛り上がりました。♪右、右、左、左、前、後ろ、じゃんけんぽん♪ ノエミア初等学校の子供たちは、市内大会のかけ声にするくらい気に入ってくれました。



日本のことが少しずつわかってきた頃、休憩時間に子どもたちに呼ばれたことがありました。何かと思い行ってみると、日本の運動会で行われる組体操をしていました。DVDの映像でみたピラミッドを自分たちで作っていたのです。そこで、扇やサボテン、飛行機などの技を教えてみたところ、さすがブラジルの子もたち。普段裸足で外を駆け回ったり、逆立ちやブリッジをしたりしていることもあり、すぐにできました。友達と協力して1つの技を完成させるおもしろさを実感できたように思います。



組体操

ピラミッドとサボテンができましたよ!

そこで今度は、DVDの中で紹介されていた日本の授業を体験してもらおうと思い、リコーダーや習字、家庭科の調理実習を行いました。リコーダーと習字道具は、パラナヴァイ市日本語学校に貸してもらうことができました。また、調理実習では、普段昼食を食べている場所を使わせていただき、カレー作りをしました。ただ、どれも数が足りなかったため、待ち時間ができてしまい、十分にできなかったのが残念でした。しかし、子どもたちは初めての体験に大興奮。終わった後は必ず、「またやりたい」「家でもやってみるよ」という子ばかりで、やってよかったなと思いました。

リコーダー カスタネットのリズムに合わせて、演奏しました



習字



最初は新聞紙で練習しました



きれいな花がたくさん咲きました

調理実習



包丁の使い方に気をつけて!



使った場所はきれいに掃除します



カレーの準備ができました



私は苦手...

おいしいよ~♪

完成したカレーは、少し辛かったね

また、カイーキ初等学校では、現在岩西小学校で研修中のシルマ先生とスカイプ（テレビ電話）も行いました。日本時間の夜9時、ブラジルは朝の10時。5ヶ月ぶりにシルマ先生と顔を見て話すことができ、先生方は大盛り上がり。一方、子どもたちは少し緊張気味に日本のことについて質問していました。そして最後に、今度は日本の友達にブラジルのことを教えてあげようと、絵手紙を書く授業をしました。ブラジルの食べ物や生き物、



日本はどうですか?

学校の様子などを写真や絵で表現しました。「日本から返事がくるといいな」と、返事を期待する笑顔が印象的でした。

今回、私が教えたことは、日本文化のほんの一部でしかありません。しかし、これを一つのきっかけとして、さらに日本への関心を高め、同じ年代の子たちと交流をしたいという気持ちをもつことができたと思います。



私たちと友達になってね☆

スカイプ



シルマ先生と話ができ、みんなにっこり!

今後もパラナヴァイ市と豊橋市との教育交流を進めていくためには、学校間だけでなく、市や教育局とも連携し合い、継続的に活動していくことが大切であると思いました。



ノエミア初等学校とカイーキ初等学校で多くの時間を過ごす中で、気づいたことがありました。それは掃除です。ブラジルでは、子どもに掃除をさせることは法律的にも難しいということは知っていました。しかし、担当の先生によっては、最後の片付けを指示する先生もいました。ただ、やらない子がいても注意することはしません。子どもの自主性に任せているのです。その場面を初めて見たとき、あまりに感動したので、その子を褒めて写真を撮らせてもらいました。すると、それを見ていたほかの子どもたちも、次々と仕事をみつけ掃除をしていったのです。きっかけは「褒めてほしい」「写真を撮ってほしい」だけだったと思いますが、「きれいになって気持ちがいいね」と伝えると、次の日からもやるようになりました。文化の違うブラジルで掃除を強制することはできませんが、子どもたちが「やりたいな」と思う気持ちがあれば、自然とできるのではないかと思いました。この姿勢が学校全体に広まっていくことを期待したいです。



友達が掃除をすると、真似して一緒にしていました



給食のお姉さんが大好きだからお手伝いしているよ

学校の先生へのプレゼント



副市長と教育局長にあいさつ

お世話になりました☆



日本のあめ玉を入れました



子どもたちには、ペットボトルでけん玉を作ってプレゼントしました

## マリンガ市教育局長&市長表敬訪問

11月からはマリンガ市での活動となります。そこで、マリンガ市の教育局長と副市長（市長は休暇のため）を表敬訪問しました。マリンガ市は日系人が多く住む町です。日本から帰国した子どもたちの実態把握や日本語学校との連携を通して、支援活動をしていきたいことを伝えました。教育局長も副市長もプロジェクトの内容に賛同してくださり、早速市内の学校にメール連絡をしていただきました。帰国した子どもたちが安心して学べる環境作りに、協力していきたいとお言葉もいただきました。



1ヶ月間、よろしくお願いします



あらってブラジルク・イ・ス!

マリンガ市で、写真のような石の固まりをみつけました。これは一体何でしょう？

- ①ロッカー
- ②階段
- ③お墓



石が積み重なっているよ

答え：③（11月2日はブラジルのお盆。そこで、知り合いのお墓参りについていきました。ブラジルは、土葬のため1つのお墓に入る人数に限りがあります。そのため、いろいろなところにお墓が点在していて、探すのがとても大変でした。

左の写真は貧しい人のお墓なので、積み上がっていますが、普通のお墓は右の写真のようになっています。供えられた花がカラフルで、とてもきれいでした。）



1つ1つのお墓が大きいです